

研究活動報告 (List of Research Activities)

(1989年1月～1989年12月)

ここに掲げる抄録は、中京大学体育学部学術研究会会員が1989年1月より1989年12月までの期間、本誌以外で発表した研究論文、研究・指導活動その他の一覧であり、すべて提出された原稿をそのまま記載し、著者名のABC順にこれを配したものである。

**C. S. Chen, Y. Ohira, T. Koyama,
M. Kanzaki**

Sports anemia in elite sprinters and distance runners

Colloque INSERM, Vol. 197, 1990, pp. 373-376

激しい超長期的身体トレーニングが一流短・長距離陸上選手の血液性状、とくに貧血・溶血および酵素の活性とその含有量に対して、スポーツ・トレーニングの特殊性がもたらした適応の相違にいてた検討した。

**斎藤 嘉代, 神林 隆幸, 横山 寿光,
陳 全寿**

腋窩部に出現した稀有な破格筋の1例, 19回杏林医学会総会抄録, 1990年11月10日

本筋は肩甲下筋(Msbs)の表面に位置し、肩甲下角のやや上方から外側縁に沿い上行する破格筋である。本例のようにN. sbsに支配され、Tdから起始し、Mcbに停止する筋は210例中1例出現したので0.5%の出現率であった。

陳 全寿

長期トレーニングによる骨格筋の組織・化学特性の変化, 北京アジア大会スポーツ科学会議抄録集。1990年9月

長期トレーニングによる骨格筋の組織・化学特性は、PositiveとNegativeの2つの変化が見られ、Positiveの方は、筋肥大、ミトコンドリアの増加、さらに、LDHのSubunitの割合がトレーニング内容によって変化することが見られる。Negativeの方では、とくに赤筋線維の方が微細組織の損傷が見られ、頻度の高い出現部位は、Z-BandのStreamingである。

陳 全寿

Sports and welfare : —From the view points of science of training and the trainability of skeletal muscle and body—

韓国体育学会特別講演, 大会号抄録, 1990年12月

スポーツと幸福をトレーニングの観点から、健康のもつ意味、とくに中・高年者の健康保持や増進をさせるための身体運動とその運動効果について、macro及びmicroの両面から考察した。

林 邦夫

剣道における科学的トレーニング ——全日本女子学生剣道優勝選手の場合—— 競技力向上のスポーツ科学II, トレーニング科学研究会編, pp. 128-137, 1990

いかに剣道の競技力を向上させるかということについて、全日本女子剣道優勝選手たちの体力などを科学的に分析したデータや同選手たちが行ったトレーニング方法を紹介し検討した。

林 邦夫

東欧諸国における剣道指導及びデモンストレーション, 1990. 9. 17～10. 17, 外務省国際交流基金の派遣でチェコスロバキア, ユーゴスラビア, ブルガリアにおいて日本文化の紹介と国際交流を目的として剣道, 居合, 剣道形審判法, 試合運営等の実技指導及び公開演技をおこなった。

本間 幸雄

スポーツストラッピングの完全ガイド, 1990.

9, 朝日新聞社編集

スポーツストラッピングの方法, 技術について著者が考案したものを日本へ初めて紹介したガイドブック。

藤原 健固**高齢化社会の到来と問題点**

体育学論叢 7-1, pp. 3-12, 1990.

我が国における高齢化社会の進行とその結果, 予測される社会構造の変化および社会成員の変容について論じた。

藤原 健固

生涯学習と情報化社会生涯学習高知 1, pp. 2-3, 1990. 高齢化社会における生涯学習の位置と意義について, とくに人間の五感との関係で情報化社会のもつ問題点との関連を論じた。

藤原 健固

歩く速さでものを見たり考えたりする大切さ Dental Diamond, 15-5, pp. 140-145, 1990. 現代社会における所与性の認識において“歩き”のもつ意味を論じた。

家田 重晴**保健科教育法テキスト**

中京大学保健教育研究会, 1990.

中京大学体育学部の3年次で開講している保健体育科教育法のうち, 保健科の授業(半期)で用いるためのテキストを作成した。

家田 重晴**保健行動論**

伊藤 章編集: 健康科学の課題と展望, 第5章, 東山書房, 1990, 82-96.

保健行動とそれに影響を与える因子について, 日本や米国におけるこれまでの研究の成果をもとにして論じた。

家田 重晴・滝 克己・栗木 一博・高橋 浩之・西岡 伸紀

幼児の飛び出し事故防止のための訓練に関する研究

る研究

佐川交通社会財団, 交通安全対策振興助成研究報告書 5, 103-107, 1990.

「飛び出し」事故防止のための効果的な訓練方法を開発するための第一歩として, 幼児を対象に, 行動リハーサルやビデオによる行動のフィードバックなどを用いた訓練を実施し, 訓練方法の検討を試みた。

Ohsawa, S., Takahashi, T., Indrapana, N., Panitchareonnam, S., Panitchareonnam, S., Ieda, S., et al.

Health and Lifestyles of School Children in Northeast Thailand. Otsuma Women's University Society of Health Statistics in South East Asia, 1990.

アンケート調査の結果から, 児童生活の生活構造や健康に関して, タイ国のウボン県, バンコク, タイ国日本人学校及び日本(茨城県)のデータを比較した統計資料集である。

石河 利寛**スポーツ医学の25年**

スポーツのひろば No. 197, 11-12, 1990.

1964年に行われた東京オリンピック大会が契機となって, 1960年代にはスポーツ選手および一般人の体力問題が論議された。1970年以後は成人病予防と老化防止の立場からスポーツ医学が脚光を浴びている。

石河 利寛**運動生理学の動向と進歩**

体育の科学 40(1), 14-17, 1990.

運動生理学は戦前には労働生理学として発展し, 労働者の作業の合理化と生産の向上に役立った。戦後は運動処方, 運動療法, 成人病予防, 老化防止などにたいする理論と実際を推進する科学として注目されている。

石河 利寛**運動負荷テストについて**

中京大学体育研究紀要 第4号 43-47, 1990.

運動負荷テストの必要性と運動負荷装置の種類, 運動負荷方法および負荷テストの指標について総説的に述べた。

石河 利寛

スポーツ医学から見た中高年者の体力づくり
NC ウェルネス 1990, 18-19. 中高年者でも体力づくりによって体力が向上することを述べた。

石河 利寛

循環最新スポーツ医学 (黒田, 井川, 高沢, 中島, 村山編), 68-85, 1990, 文光堂。

スポーツ医学に関する単行本の中で「循環」について記述した。

長沢 純一, 佐藤 祐造, 石河 利寛
Nagasawa, Sato, Ishko: Effect of training and Detraining on In Vivo Insulin Sensitivity. International Journal of Sports Medicine 11 (2), 107-109, 1990.

名古屋大学の佐藤と共著で長沢が主となって実験し, 自発的運動がラットのインシュリン感受性を高めることとその効果が運動中止後何日くらい保たれるかを明らかにした。

松井 健, 山本 高司, 中川 武夫, 石河 利寛

碧南市中高年者運動負荷テストに関する基礎的研究体育研究所紀要 4 号 23-26, 1990. 「松井健」の項参照

山本 高司, 中川 武夫, 石河 利寛, 浅野 幹也

心拍数に基づいて全身持久性トレーニング負荷を決定する際の作業流れ図

中京大学論叢 32 (1), 45-47, 1990. 「山本高司」の項参照

勝亦 紘一

陸上競技のコーチングに関する調査研究—日本と外国の指導者の比較—日本陸上競技連盟指導カリキュラム開発プロジェクト, 日本陸連研

究誌, 1990. 3.

ジュニアおよびシニアの優れた競技者を育成してきている日本の指導者 59 名と, 外国の指導者 13 名を対象に, 陸上競技の指導についての考え方やトレーニングプログラムの立案について調査し, 指導カリキュラムに役立つ多くの知見を得た。

勝亦 紘一

消防職員のフィットネス・トレーニング—ストレッチ体操編—ビデオ 1990. 2.

名古屋市消防職員の健康・体力づくりに役立つ基礎的なストレッチ体操を紹介した。特にストレッチする筋や腱に“意識を集中して伸展する”ことを強調し, 効果を高めようとしているところに特徴がある。

勝亦 紘一

消防職員のフィットネス・トレーニング—サーキットトレーニング編—ビデオ 1990. 2.

名古屋市消防職員の体力づくりをめざして, サーキットトレーニングを紹介した。トレーニング内容は, 全身持久力の向上と合わせて身体各部位の筋肉を無理なく増強させようとするところに特徴がある。また, 運動者の年令や体力に合わせて, 楽しく活用できるように配慮した。

勝亦 紘一

第 3 回世界ジュニア陸上競技選手権大会報告, 陸上競技マガジン陸連時報, 252-253, 1990. 10.

第 3 回世界ジュニア陸上競技選手権大会は, 8 月 7 日~12 日, ブルガリアの第 2 の都市プロブディフで 86 カ国, 1034 選手 (男 642, 女 392) が参加して熱戦が繰り広げられた。

大会に日本チームの監督として参加した私は, 銀メダル 1, 銅メダル 2, 他入賞者 8 名と空前の好成績を収めた大会をふり返り“勝因分析”を選手とコーチのコミュニケーションに焦点を当て報告書にまとめた。

勝亦 紘一

ストレッチ体操教科書中学校体育実技, 学習研究者, 258-262, 1990.

ストレッチ体操の基本をイラストを用いてわかりやすく解説した。従来紹介した2人組みのストレッチ体操については, さらに改良を加え, 実施上の留意点を明確に示した。

勝亦 紘一

高齢者にやさしい運動—こんなことも運動です—財団法人厚生団高齢者開発事業部編 24-30, 1990, 3.

高齢者が簡単にでき, しかも親しみやすい“ひとりでする運動”の章で, ①首・肩の疲れをとろう②腰の疲れをとろう③足の疲れをとろう, の各内容で適切に紹介した。

勝亦 紘一

スポーツ活動中に発生する傷害の要因とその予防に関する基礎的及び応用的調査研究(第1報)財団法人スポーツ医・科学研究所 1990, 3.

スポーツ人口の増加, スポーツ活動の多様化, さらにその技能の高度化等から, スポーツ活動中における外傷・傷害は多発している。

本研究はスポーツ活動中に発生する外傷・傷害の原因をスポーツ医・科学的見地から究明するとともに, 予防対策を提言することを目的とし, その第1報をまとめたものである。

川端 昭夫

いきいきと健康な農家生活を送るために(らくらくフルーツ体操のすすめ)平成2年地方振興補助事業, 10, 1990.

農業改革普及所の健康推進事業の一環として, 現行でも充分機械化し得ない激務の果樹農家作業に対する一助回復と身体調整及び農業人口の高齢化に供なう体力保持増進を目的に「らくらくフルーツ体操」が作成された。当体操は, A疲労回復・リフレッシュ, B体力養成, C AB混合の3プログラムから構成され, 実施者が, 必要性や状況に応じて選択し, 気軽に実施できるよう工夫されている。

川端 昭夫

消防職員のフィットネス・トレーニングリズム体操編一(ビデオ), 2, 1990.

名古屋市消防職員のフィットネストレーニングとして, 筋力, 持久力養成を主としトータルフィットネスをねらいとするリズム体操を紹介した。内容は, ウォーミングアップ, フィットネス, クーリングダウンの3パートからなり, 中心課題のフィットネスパートではウォーキング→ジョギング→ジャンピングと徐々に全身持久性を高めて行く中に筋力平衡性, 敏捷性, 巧緻性の要素を配列し, 他のパートと合わせてトータルに体力養成ができるようプログラムされている。

川端 昭夫

高齢者交通安全体操<リズム体操>平成2年愛知県昭和警察署交通安全週間対策, 8, 1990.

近年急増している高齢者の交通事故の防止対策として, 高齢者の道路交通の行動変容及びその前提となる老化防止, 体力保持を目的とする高齢化交通安全体操を作製紹介した。プログラム内容は, 前半はウォームアップと老化防止の為にストレッチを主体とする柔軟性養成を, 中間では, 全身的運動より徐々に強度を上げる中で道路交通上の安全確認動作(停止・左右確認・信号確認等の諸動作)のイミテーション運動を配列し, 後半ではストレッチとリラックス運動を組み込み全体として気軽に実践できるように配慮されている。

北川 薫

トレーニング・プログラムを考える

教職研修 18-7 (No. 211): 137-140, 1990.

トレーニングの3条件である強度, 時間, 頻度との関連で全身持久力の合理的な向上方法について解説した。

北川 薫

運動エネルギー需要量

宮下・武藤編著, 運動療法ガイド pp, 53-57, 日本医事新報社, 1990.

トレーニングプログラムでの強度決定での背景にある酸素摂取量の測定法と、そのエネルギーとしての意味を概説した。さらに、その関連でメッツの具体的な応用法をまとめた。

北川 薫

肥満者と体力

Health Science 6: 39-41, 1990.

脂肪量の測定と肥満の判定、肥満者の脂肪量と体力、チャンネルスイマー(海峡泳者)L. C. 嬢の場合の3項目について、筆者の研究結果をもとにまとめた。

木村 吉次

社会体育論の系譜に関する一考察—永井道明の「社会体育」概念の形成を中心として—中京大学体育研究所紀要4号1-8, 1990. 明治末期永井道明の「社会体育」調査に関連して、社会体育の概念が形成された過程を明らかにした。

MORINO Shinji

Analyse de la fonction et de la structure des règles du jeu-une communication présentée au Symposium International: "Sport...Le Troisième Millénaire" tenu au Québec, Canada du 21 au 25 mai 1990.

クーベルタンの北アメリカ訪問100周年を記念して開催された国際シンポジウムでの研究報告。スポーツルールの構造分析を中心に、現代スポーツにおける研究上の問題点を列挙し、社会科学的な分析の必要性について述べた。

MORINO Shinji

Social education and Mass sport: Japanese experience-a paper presented at International Seminar on "Social Education", Yaroslavl, USSR, October 7-13, 1990.

ソビエトのヤロスラブルで開催された「国際社会教育セミナー」における研究報告。とくに、ソビエト専門家(科学アカデミー身体文化研究班)との間で今後の意見交換や共同研究を可能にするため、日本における社会体育の実態を紹介

し、現時点での研究動向を具体的な形で整理して提示した。

守能 信次

ワールド・レジャー・レクリエーション, カナダ編

月刊レクリエーション, No 359, 1990. 9, pp. 30-31.

世界の各国で日常的なレベルで展開されるレジャーとレクリエーションの状況を具体的な例に即して解説を加え、日本人のレジャー設計に指針を与えようとするシリーズの、第一回カナダ編である。

守能 信次

ケベック言語ショック(二)——あるカナダ滞在の記

社会科学研究, Vol. 11, No' 1990, pp. 37-83.

カナダおよびケベックにおける言語問題を解説。この号では各論に入り、カナダ各州におけるフランス語の公的地位ないし使用実態に触れ、最後にケベック州におけるフランス語をめぐっての言語問題を、法的な観点から解説を加えた。

守能 信次, 木村 吉次, 山本 秀人, 仲野 隆士, 金子 守男, 国友 宏渉

子ども会におけるスポーツ活動の意義と役割に関する研究

マツダ財団「研究報告書」(青少年健全育成関係), Vol. 3, 1990, pp. 16-33.

マツダ財団による研究費補助を受けて実施した青少年育成関係の研究の公式報告書。子ども会という、わが国でも指折りの、きわめて規模の大きい児童集団を対象に、そこでの活動に占めるスポーツ活動の位置を明確にするとともに、それに付随して見られる首魁教育面での、あるいはレジャー教育面での問題点を抽出し、それに対処するための提言をまとめた。

仲野 隆士, 守能 信次

子ども会におけるスポーツ・レクリエーション

ン活動に関する研究

Leisure & Recreation (自由時間研究), レジャー・レクリエーション研究所, No. 8, 1990, pp. 45-53.

子ども会におけるスポーツ活動の実態を調査によって明らかにし, とくにそれとスポーツ傷害との関係から近年における実態について分析を加えた。市の中央大会や, 三河地区大会といった, 広域圏での子ども会スポーツ行事の廃止にともない, スポーツ傷害件数は減少する傾向にある。これには他の要因(勝利志向がおよぼす功罪)がからんでいて, 今後とも, 興味深い研究対象としてある。

金 有田, 国友 宏渉, 小林 秀一, 守能 信次

社会人野球選手の生活意識に関する日韓比較研究

東海保健体育科学, Vol. 12, 1990, pp. 1-10.

日韓における社会人野球選手を対象に, 練習や勤務を中心とした生活に実態を明らかにし, 同時に社会人選手という身分にかんする意識を比較検討したもの。この主の研究は, 資料収集を目的とする調査の進め方(とくに調査対象の同意を得ること)においてきわめて多くの困難に遭遇するため, これまでまったく手つかずの状態にあったが, そうした意味においても, 今後, 縦断的に研究を進めていく必要と意義がある。

Genyo Mitarai and Mitsuhiro Koeda

A preliminary experiments on the vestibulo-motor system control of posture in humans.

Proc. 3rd. Nihon Univ. Int. Sympo. on Aerospace Sci., pp. 347-351, 1990.

前庭系の異常刺激に対抗して, ヒトが直立位を保とうとするとき, どのような戦略がとられるか。この点を, 温度性眼振誘発刺激時の身体動揺や下肢筋電図の分析によって考察した。

Noriyo Kawai and Genyo Mitarai

Exercise effect on recovery from a disused osteoporosis of tail suspended rat.

Proc. 3rd Nihon Univ. Int. Sympo. on Aerospace Sci., pp. 181-186, 1990.

尾部懸垂ラットに出現した後肢の骨粗鬆症の回復時に, どの程度の運動が有効かを検討した。

Mitsuhiro Koeda, Genyo Mitarai and Yasuhiro Sugajima.

Effect of angular acceleration on spinal stretch reflex.

proc. 3rd Nihon Univ. Int. Sympo. on Aerospace Sci., pp. 187-192, 1990.

座位で下肢をリラックスしているとき, 受動的な体の回転刺激を与えるとヒラメ筋H反射が抑制されることを発見, その機序を考察した。

Dai Yanagihara and Genyo Mitarai

Effects of vestibular and visual deafferentation on postural adjustment behaviors in goldfish.

Proc. 3rd Nihon Univ. Int. Sympo. on Aerospace Sci., pp. 223-227, 1990.

金魚の胸部に発砲スチロール小球(0.03~0.12 g)を取り付けると, 最初は姿勢を抑制できないが, やがて正常遊泳を回復する。この回復過程にたいする視覚や前庭覚の重みについて検討した。

Genyo Mitarai and Mitsuhiro Koeda

Effects of passive angular body movement on soleus H-reflex in humans.

Proc. 7th Int. Symp. Space Tech. and Sci., pp. 2059-2063, 1990.

回転加速度による半規管刺激は, 座位のヒトの下肢脊髄反射を抑制することを指摘した。

Yasuhiro Sugajima and Genyo Mitarai

Characteristics changes of muscular

synergy during isometric contraction under weightlessness stimulated by water immersion.

Proc. 7th Int. Symp. Space Tech. and Sci., pp. 2065-2069, 1990.

立位で片足の腰関節を 120°に保ち、一定の負荷に耐えて、その関節筋群の等尺性収縮をかせぐとき、とくに屈筋群の筋電図や運動単位活動をみると、これらの筋放電と収縮力との関係は地上の場合と浸水無重量状態とは異なり、浸水時の変化は各々の筋について特異性を示すことを発見した。

Satoru Watanabe, Masafumi Tanaka, Yoshihiro Wada, Dai Yanagihara, Naoya Tsujimoto, Hideki Suzuki, Noriyo Kawai, et. al.

Telescience testbed for biomedical experiments in space-morphological and physiological experiments of rat musculoskeletal system.

Abst. papers 7th Int. Symp. Space Tech. and Sci., pp. 468, 1990.

宇宙ステーションにおけるラットの組織学的研究や筋、血液の生化学的研究をテレサイエンス的に実施するための手続きや方法について検討した。

川井 紀代, 御手洗玄洋, 菅嶋 康浩
ラットの廃用性骨萎縮の回復期における運動効果

日本体育学会第 41 会大会号 A. pp. 327, 1990.

廃用性萎縮モデルとして尾部懸垂ラットを用い、後肢に廃用性骨萎縮を起こした後その回復過程における運動効果を検討した。その結果、骨萎縮が起こった大腿骨では、回復期において高スピードトレーニングにより骨の灰分重量が有意に増加したが、低スピードトレーニングでは僅かに増加したのみであった。

柳原 大, 渡辺 悟, 御手洗玄洋
金魚の小脳弁部外側部における求心性神経線維連絡

日本宇宙生物科学会第 4 回大会 1990. 10. 発表

金魚の小脳分部外側部への求心性神経線維連絡を HRP 法によって組織化学的に検討し、視覚入力、前庭覚入力の経路を同定した。

肥田 満裕, 御手洗玄洋子, 菅嶋 康浩
体の水平回転が下肢脊髄反射におよぼす影響
日本宇宙生物化学会第 4 回大会 1990. 10. 発表

角加速度刺激を半規管に与えたとき、ヒラメ筋 H 反射が抑制されることを発見したが、今回は、その特性を検討し、抑制は角加速度の大きさだけでなく作用時間に比例することを明らかにした。

菅嶋 康浩, 御手洗玄洋, 肥田 満裕
無重量環境下におけるヒトの骨格筋活動の特徴

日本宇宙生物科学会第 4 回大会 発表

等尺性収縮時にみられる運動単位活動の収縮動員曲線は水浸無重量下では地上とことなることを先に発見したが、今回、動員される応答タイプ（持続型、相動型）の構成も異なることを明らかにした。

菅嶋 康浩, 御手洗玄洋, 肥田 満裕, 川井 紀代, 柳原 大, 森谷 敏夫

浸水下における筋活動様式の特徴

日本体育学会大 41 会大会号 A. pp. 219, 1990.
筋力発揮時の筋運動単位の動員様式が、地上と水中では特徴的な差を示すことを発見したが、腰関節屈筋群について、各単位のスパイクの振幅-頻度曲線（森谷式）を比較して、主働筋と各協同筋との間に明確な差があることを明らかにした。

肥田 満裕, 御手洗玄洋

立位時身体動揺のスポーツ種目による特徴

第 45 会日本体力医学会抄録集, pp. 106, 1990.
一般大学生、体操部員、水泳部員、陸上部員について身体動揺を分析、比較し、そのパワース

ペクトルの形が、それぞれに特徴的であるという結果を得た。

肥田 満裕, 御手洗玄洋

温度性眼振誘発刺激時の立位姿勢の変化

第 36 会日本宇宙航空環境医学会 1990. 12. 発表

身体動揺計の出力を分析して、温度性眼振に対応する刺激耳側への持続的傾斜とパワースペクトルに 0.25 Hz 前後の特徴的な増大を認めた。

柳原 大, 渡辺 悟, 御手洗玄洋 金魚の小脳弁部外側部における求心性神経線維連絡

第 14 会神経科学学術集会予稿集, pp. 116, 1990.

金魚の小脳弁部に HRP を注入し、ここに投射する視覚と前庭覚の経路を明らかにした。

Dai Yanagihara, Masafumi Tanaka, Satoru Watanabe and Genyou Mitarai

Afferent connections of the valvula cerebelli in goldfish (*Carassius auratus*).

Environmental Med., 34: 185-188, 1990.

金魚の小脳弁部への感覚入力を組織化学的に検討し、ここに視覚前庭覚の入力のあることを証明した。

御手洗玄洋

ヒトの平衡機能

理学療法 7: 159-164, 1990.

ヒトの平衡機能の特異性を述べ、宇宙医学研究によって明らかにされた最近の新しい知識について紹介した。

室伏 重信

トレーニングの適量と限界量

体育の科学 VOL. 40, 9月号, 1990.

選手の立場からみたトレーニングの適量と限界量—ハンマー投—

中山 彰規

青少年健全育成と地域社会での体力づくり

名古屋ロータリークラブ, 美浜少年自然の家, 福井・美広公民館において表記の講演を行い、青少年の健全育成に果たす地域社会でのスポーツ活動の重要性について述べた。

湯 海鵬, 阿江 通良, 横山 孝志, 渋川 侃二

空中における身体の腕—捻りに関する研究—

バイオメカニズム 10, 107-118, 1990. 左右対称の姿勢で、空中で宙返りをしているとき、片腕を動かして左右非対称な姿勢をとると、宙返りのほかに、長軸まわりの捻りを生ずる。この現象を理論および実験により解析した。

鶴峯 治

水泳人生泣き笑い III 月刊水泳, 日本水泳連盟, pp. 1~4, 1990. 2.

高橋繁浩選手が 1978 年世界最高記録を樹立してから、1988 年ソウルオリンピック大会で再び日本新記録を樹立するまでの波乱万丈の水泳人生を、コーチの立場からドキュメント構成で綴る。

「選手のタレント性を生かせ I」「競泳選手のピーク年令と完成年令 II」まとめとして書いたもの。

鶴峯 治, 村川 俊彦, 滝瀬 定文, 市川 宜恭, 増原 光彦

「指導者のための新・水泳指導論」不昧堂出版, 1990. 4.

水泳指導に必要な基礎的知識(「つまづき」とその指導法, 段階別指導法)をはじめ、水泳による障害の予防と治療にいたるまで詳しく解説。

鶴峯 治

水泳選手のスポーツ・タレント, (競泳の立場から), 水泳医・科学シンポジウム'90, 1990, 11, 25.

これまで、13 人のオリンピック選手を手掛け

た演者が、競泳選手のタレント性発掘について、技術面、体格・体力面、性格・精神面の3つの方向からその考えを発表した。

湯浅 景之、鶴峯 治、小笠原悦子
競技力向上のスポーツ科学Ⅰ，朝倉書店，
63-74，1989.

高橋繁浩氏の平泳ぎをバイオメカニクスの的に分析し，その技術を紹介している。さらに代表的なトレーニング法の紹介も行なった。

鶴峯 治

文武両道の考え方，青少年健全育成のつどい，
豊橋市民文化会館ホール，1990. 2. 23. (講演)

スポーツマンはスポーツの技術のみを向上させればよいものでなく，それ以前に，よい社会

人でなければならない。このことは言うは易く行うは難しであるが，自らの経験をまじえて，一歩でもこの理想に近づくための提言を，とくに青少年に役立つような形でまとめた。

鶴峯 治

可能性への挑戦，文部省主催，全国公立小・中学校事務職員研修会，国立教育会館筑波分館
1990，7，20. (講演)

どのような職場に働くとしても，その職場において未知のもの，研究しなければならないことがある。そうしたことについて，スポーツ選手としての経験，またスポーツ選手を育てるコーチとしての体験から，可能性を追い求めることの重要性について講演をした。